

第4回 後志利別川整備計画検討委員会 議事要旨

- 日 時：令和5年1月31日（火曜）13：30～16：15
- 場 所：今金町民センター 2F大会議室（Zoom によるWEB 開催併用）
- 出席者：中津川委員長、井上副委員長（WEB）、岩崎委員（WEB）、卜部委員（WEB）、鈴木委員（WEB）、千葉委員、宮本委員（以上7名）
※委員長、副委員長以降の順は五十音順

■議 題

- （1）前回の検討委員会でのご意見について
- （2）後志利別川水系河川整備計画〔変更〕（原案）について
 - ①河川整備計画の目標に関する事項
 - 1-3 河川整備計画の目標
 - ②河川整備の実施に関する事項
 - 2-1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要
 - 2-2 河川の維持の目的、種類及び施行の場所

■議事要旨

- （1）前回の検討委員会でのご意見について
 - ・ [P6] 令和4年8月洪水では避難指示が出ていたのに避難者数は少なかったことについて、どのように考えているのか。（委員）
→今金町では、今回の洪水について振り返りを行っていると聞いており、自治体と連携しながら避難に関わる防災意識の向上や情報の出し方について改善していくと聞いている。今後、防災教育の実施等、役場と連携したい。（事務局）
- （2）後志利別川水系河川整備計画〔変更〕（原案）について
 - ①河川整備計画の目標に関する事項
 - （1-3 河川整備計画の目標）
 - ・ [P12] 北海道開発計画と河川整備計画がどのように紐づいて連携しているかということの説明するページだと思う。「強靱で持続可能な国土」が重要であるならば、ポイントとなることを明確にすると良い。（委員）
→検討する。（事務局）
 - ・ [P14-16] 資料3では目標流量算出過程をある程度説明されているが、資料4原案では

結論だけが掲載されており原案だけをみると根拠がわからない。将来的に検証する必要が生じた場合、資料が残されている必要があるのではないか。(委員)

→参考資料として今後、整理して参りたい。(事務局)

- ・ [P15] ここで示しているヒストグラムは一般の方には分かり難いと思う。数千年分というアンサンブルデータから流量計算を行い、出現頻度を整理したものであるが、充足率が示されていないのではっきりして欲しい。(委員)

→現整備計画目標流量 $1,200\text{m}^3/\text{s}$ に対する過去実験充足率は 95% である。95% を 2°C 上昇実験に当てはめると $1,530\text{m}^3/\text{s}$ となる。(事務局)

- ・ [P15-P16] 雨量確率図における気候変動を考慮した確率曲線は、アンサンブルデータを活用しているのであれば幅が出てくるのではないかと。また、充足率や雨量確率図の件は参考資料に残した方が良い。(委員)

→実績雨量を元に算出した各確率規模雨量を 1.15 倍して評価しており 1 本の曲線となる。また、充足率や雨量確率図などの計算データは参考資料として整理して参りたい。(事務局)

- ・ [P16] 雨量確率図の縦軸の捉え方を教えて欲しい。(委員)

→例えば $1/30$ は、30 年に 1 回の確率で発生するということを示している。(事務局)

- ・ [P19] 作成されているリスクマップはまちづくりや地元の治水対策に対して情報として寄与している部分が非常に大きいと考えている。情報を提供し流域一体となって治水対策に取り組んでいることをアピールした方が良いと思う。(委員)

→検討する。(事務局)

- ・ [P20] 非常に多くのプロジェクトメニューがある中で、実施主体との情報共有を図っていくことが非常に重要であると思う。現在、どの程度連携できているのか、新たな枠組みが必要なのか、問題点は何かなど整理されているか。(委員)

→流域治水協議会を令和 2 年に発足し、令和 4 年 8 月洪水を踏まえて幹事会を開くなど、定期的に協議会等を開催し連携・共有を図っている。ただし、具体的などころは課題があるため、今後も引き続き調整していきたい。(事務局)

- ・ [P21] グリーンインフラに魚道整備が示されているが問題ないのか。グリーンインフラの定義とは何か。(委員)

→環境・地域振興・防災の三つと認識しており、魚道整備によりサクラマスなど魚類

生息環境の改善加え、個体数の増加による地域振興への寄与の観点から、現状ではグリーンインフラとして位置付けている。(事務局)

- ・ [P23]生態系ネットワークではサケに加え、サクラマスも位置付けた方が良いのではないか(委員)
→検討する。(事務局)

- ・ [P23]1/10 濁水流量等から設定されている正常流量 $3\text{m}^3/\text{s}$ は、現行計画から変わらないとのことだが、気候変動を踏まえると変わるのではないか。(委員)
→正常流量は魚類に最低限必要な水深等から設定しているため、1/10 濁水流量が変化したとしても正常流量は変わらないものと考えている。(事務局)

②河川整備の実施に関する事項

(2-1 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要)

- ・ 水害リスクが高い農地等への河道掘削土の利用にあたっては、地域のリスクや農地への影響を十分検討して頂きたい。また、降雨や流入量の予測の精度が向上すれば更なる効果的な利水ダムの運用も図れると思う。(委員)
- ・ [P26]環境面も含めて掘削断面イメージは理解したが、具体的な断面設定は検討しているのか。(委員)
→今後検討が必要と認識しており、有識者のアドバイスをいただきながら進めていきたい。(事務局)
- ・ [P26]専門家に意見を聞きながら、流下能力の確保、環境への影響を考慮し掘削方法を進めて行くことになる。分かり易い事例として、兜野橋下流の中州の整備方針は、現在どのように考えているのか。(委員)
→1way化(中州を掘削する案)や2wayを維持するのか、引き続き地元や有識者のアドバイスをいただきながら進めていきたい。(事務局)
- ・ [P30]流域治水プロジェクトの具体像を整備計画書に盛り込めないのか。原案では文章のみであるため、もう少しイメージや構想図等があれば良いのではないかと思う。(委員)
具体的なイメージを示すことは同感であるが、整備計画の変更は大変な部分もあり、悩ましいところではある。大枠は整備計画で示し、具体は流域治水協議会で進めて行

くなど役割を分担してはどうか。(委員)

→流域治水プロジェクトは、さらに見直しを行いながら関係機関とも協議し進めて行くものであり、現時点で具体的に示すのは難しい。(事務局)

・ [P32] 避難所整備などは協議会の中で議論するということが良いか。(委員)

→水防拠点の整備箇所や利活用など地元自治体と協議して進めて行く。(事務局)

・ [P36] 先ほども話題になったが、グリーンインフラの展開としての魚道整備は少し違和感がある。この文脈であればグリーンインフラの一つという方が捉えやすいのではないか。(委員)

グリーンインフラの定義を整理して欲しい。(委員)

→次回までに整理する。(事務局)

・ [P37] 関連して、グリーンインフラとは何か、流域治水プロジェクトとは何をしなければいけないのかという事を整理し、その中で「かわたびほっかいどう」ではどうすべきかを明確になると良い。(委員)

→次回までに整理する。(事務局)

③河川整備の実施に関する事項

(2-2 河川の維持の目的、種類及び施工の場所)

・ [P43] 現時点で、チップ化やバイオマス発電燃料等としての活用先はあるのか。無いのであれば、学校や高齢者施設で活用されている事例もあるので、協議会等で共有しながら地域として取り組んで欲しい。(委員)

→情報共有しながら進めていきたい。(事務局)

・ [P49] 地域の方々にとって洪水情報が大事なところだと思う。高速道路情報や JR の遅れ等の情報発信で活用されている SNS は使用されているか？(委員)

→広報部署にて Twitter で発信する準備は整えている。(事務局)

・ [P51] 高齢化などによる避難行動支援者がタイムラインに大きく関わってくると思うので、「支援していく」ことを明確に謳ってはどうか(委員)

→個別避難計画の作成支援について記載しておりますので、引き続き実施していきたいと考えている。(事務局)

・ [P57] カーボンニュートラルは重要なテーマであるため、もっと整備計画の前面に出

した方が良い。(委員)

→検討する。(事務局)

- ・ [P57]カーボンニュートラルは重要な取り組みだと思う。例えば公募伐採などは他の地域も巻き込んで進めて行ければ良いと思う。(委員)
→公募伐採は毎年ホームページで募集しており 50 名ほど申し込みがある。引き続き PR 等をしていきたい。(事務局)

- ・ [P57]工事機械の EV 化とか図られているのであれば、何%増やしているなど、その辺りを記載すると良いのではないか。(委員)

→検討する。(事務局)

(3) 全体を通して

- ・ 流域治水に関する整備内容で詳細なものと漠然としているものがある。例えば、「粘り強い堤防」(P31)では一般の方には分からないのではないか。事例を掲載するなどもう少しイメージし易いようにしてもらいたい。(委員)

→検討する。(事務局)

- ・ 流入量予測と事前放流の関係で、地元に必要な情報を配信するなど、河川情報は一体でシステムを作って共有する方が良いと思う。その辺りも流域治水の重要なテーマになると思うので検討をお願いしたい。(委員)

→検討する。(事務局)

- ・ リスクマップは、P31 に記載の家屋移転等に活用するという理解で良ければ、P20「まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討」の中で、リスクマップを作成し、地域に提示し、具体的に進めるという流れであれば、つながりが分かり易いようにしてほしい。(委員)

→検討する。(事務局)

(4) まとめ

- ・ 前回の整備計画から時代が変化し、リスクが増大する気候変動、流域治水、グリーンインフラ、カーボンニュートラルなど新しい事に対応していかなければならなくなっている。(委員)

- ・ 整備計画書では、気候変動への適応策だけではなくカーボンニュートラルなどの緩和

策についても、例えば「1-2 河川整備の現状と課題」の取り巻く情勢などできちん記載してはどうか。また、人員不足を置き換える手段としての DX も重要であるがあまり記載がない。また、グリーンインフラについても後志利別川として、どのように定義するのか整理して欲しい。(委員)

→検討する。(事務局)